

地域と関わるさまざまな活動

学習支援教室CEMLAスクール

外国につながる生徒（主に中学生、高校生）のための学びの場として、「学習支援教室CEMLA（セムラ）」が本学内で開かれています。「CEMLA」は神奈川県内の県立高校、NPO団体が運営している教室で、毎週土曜日、本学内の施設で、日本語を母語としない生徒が日本語や各教科を学んでいます。

平成21年に協同連携を結んで以来、本学で日本語教育を学ぶ学生が、学生ボランティアとして参加しています。



ボランティアとして参加している学生の声

もともと日本語を教える仕事に興味があったことやCEMLAを見学し、懸命に日本語を学ぼうとする学習者の姿を見て少しでも力になりたいと思い、ボランティアに参加し始めました。ボランティアでは日本語を教える一方で、学習者の日本語に対する疑問から考えさせられることがあったり、母国の文化を教えてもらうことがあったりするため、私自身も学びを吸収する場となっています。(2022年度入学生)

週に1度、短い時間ですが、ただ「日本語を教える」だけではなく、学習者と沢山、コミュニケーションをとることが私の楽しみです。また、日本語教育にさらに興味を持つことができました。CEMLAの活動を通して、回を重ねるごとに、「日本語って楽しい」と思ってもらえるような日本語教師になりたいと思うようになりました。(2022年度入学生)

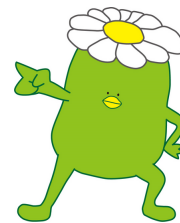


相模女子大学 学芸学部 日本語日本文学科

神奈川県相模原市南区文京2-1-1

042-742-1411（代表）

<https://sagami-nichibun.jp>



2025年度
ニチブン
学科の学びシリーズ



日本語教育学



分野の紹介



世界にも、また、日本国内にも、日本語を勉強している人たちが大勢います。彼らにとって日本語はどのような言語でしょうか。授業を通して、外国語として日本語を学ぶ学習者の視点を持つことで、今まで気づかなかった「日本」、「日本語」そして自分自身が見えてくるはずです。

相模女子大学のある相模原市を含めた神奈川県央地区は、日本語を母語としない人、外国につながる生徒が多い地域です。本学の日本語教育の授業では、さまざまな活動を通して、大学周辺に住む日本語学習者と実際に関わりあいながら、学びを深めていきます。



担当教員



永谷 直子 教授

相模の日本語教育科目

日本語教育について、 教え方について知るための科目群

日本語教育入門

日本語学習者とは？ 日本語の教室とは？
日本語教師とは？だれがどこでどのように日本語を学んでいるのかを知る、日本語教育の基本となる授業です。

さまざまな現場の先生のお話を聞いたり、ボランティア教室に見学に行ったりしながら、日本語教育の世界を感じていきます。



日本語教育入門の様子



日本語教育実習の様子

日本語教授法Ⅰ～Ⅳ

日本語の授業ではどのような教材を使って、どのように授業が進められるのか、学習者はどのように日本語を習得していくのか、を考えていく科目です。

カリキュラムやシラバス、教材や教具について学びます。日本語教育の現場で使用される教材を手に取り、分析をしたうえで、教材作成も行っていきます。

日本語について知るための科目群

日本語学概論Ⅰ・Ⅱ

1年次に必修科目として学びます。

日本語とはどのような言語か、をさまざまな切り口で分析・考察し、日本語を教える際に必要な、日本語についての基礎的な知識を身につけます。

日本語コミュニケーション論Ⅰ・Ⅱ

日本語らしいコミュニケーションのあり方について、実際の会話などを例に、分析していきます。日本語のあいまいさや気配りなどが果たす役割も考えていきます。

対照言語学

日本語とはどのような言語か、他の言語と比べながら考えていきます。学習者の視点から日本語をとらえるための手法を身につけます。

現代日本語文法

日本語を教えるために必要な文法知識を身につけます。

日本語教育を実践するための科目群

日本語教育実習Ⅰ・Ⅱ

これまでの学びの総まとめとして日本語教育の現場におもむき、日本語を教える実習を行います。教科書の分析、教案の作成方法を学んだうえで、授業見学、授業参加、授業補助などの段階を経て、教壇に立ちます。